# 福祉避難処マルフク NO.2

宮城県仙台市宮城野区田子字富里223　2011年4月10日発行
発行元：宮城野の里内 マルフク(福) ☎022-388-8777 FAX 022-388-8778
発行責任者：相馬由里（千葉）　ご意見・ご感想など連絡はこちらまで… → marufuku@miya.kou-fuku.or.jp

## ・全国から人的支援きてます。

☆ 今まで支援に加わった都道府県 ― 北海道・青森・山形・東京・愛知・茨城・大阪・奈良 千葉・兵庫・広島・神奈川・愛媛・沖縄 ―

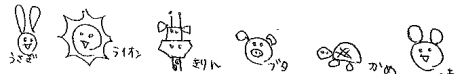
3/23(?) 北海道から始まったまる福の支援は全国から集まった支援者で輪を広げ沖縄にまで広がっています。日数は3日～5日くらいが平均でなかなか連携をとるのが難しい状況ですが、その中で1つずつたたき台をつくり、支援に来た初日から力を出せるように頑張っています。

北海道、大阪からは継続的支援に入る事が決まっていて、次回の支援者に必要な情報を提供する事で、必要な物資を直接持参できるなどつながりができています。

☆ 支援物資の様子

全国から毎日のように沢山の物資が送られてきています。衣類や食料品などたくさんあり、被災地としては恵まれた環境にあると思いますが、日常的な細々とした生活物品の中で不足しているものがまだまだあるように感じています。（ポリデントやシャンプーなど）また、全国の支援者達が持ち寄った、ご当地ものなどB級グルメも集まっています。

## ・2回目の地震のこと。



うさぎ　ライオン　きりん　ブタ　かめ　くま

4/7(木)『ニュースZERO』の放送をみんなで見終わり、トイレに行った帰り、地震が起きました。全国からの支援物資（オムツ）が倒れてきて、埋れました。宮城野の里内は停電し、水も出なくなり、ローソクと懐中電灯でなんとか明かりを確保しました。私達はまる福の皆さんを守るのと同じにケアハウスの一室一室をまわり安否確認。そんな中で「私はここから動きたくない。このままでいいの」と話す方やどうしていいのか分からず困っている方に冷静に対応しました。地元の職員の方に、「こんな時はとにかく寝て明るくなるのを待っだけだ」と言われしぶしぶ体を休めましたが、余震も続きそれどころではありません。朝になり、15cm程地面が落ちた事、ライフラインが全て止まったままなど状況は驚くばかり。3食、薪を使ったり、トイレの水はため水、エレベーターは無理など日常生活にも大きく支障をきたしました。でも。でもでも地元の方は「また振り出しに戻ったのか」と肩を落とされた姿をみてやっぱりこんな時だからこそ、まる福スタッフが「元気で楽しく明るくいないと」という思いでのりきれました。

## ・役割りをもっこと

(福)で暮らす方々は認知症があったり体の病気があったり（もちろんそうでない方もいますが）、ちょっこし不自由だったりします。でも皆さん地域で暮らしてきた、いわば生活の達人なのです。震災からのショックの中それでもこれからを生きる皆さんは(福)でも徐々に本来の生活をとりもどすべく食事の準備、後片づけ、掃除など家庭内の役割り（亭主関白もネ）を担ってくれています。皆さんの生活の再構築にむけて私たち(福)サポーターも皆さんを頼りながら一緒に頑張ります オー

## ・PSWの役割り

(福)へ初めてPSW（精神保健福祉士）が支援に入りました。

介護職の支援はバタバタと動きまわり、思う様に話を聞けない中、PSWの関わりは日に日に皆さんの笑顔が多くなるのを感じ、心のケアの大切さを強く感じました。

PSWより支援者の皆さんへ。

頑張りすぎは禁物です。もっと自分を甘やかしてあげましょうネ。

★ 発行責任者の相馬由里も先日の夜やっと外泊しておれるできました〜 安心です♡

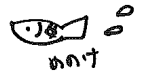
## ・手作りお祝い会

4/5(火) 夜8時から、皆さんに少しでも楽しいひとときを過ごして頂こうと思い手作りのお祝い会を企画しました。3/11の地震以降に誕生日を迎えられた方、44回目の結婚記念日を迎えたご夫婦のお祝い会です。

何かお祝いできる物がないかと考え、支援物資のフルーツの缶詰からフルーツポンチを作り、色々な食材でケーキを作ったりと皆さんをおもてなししました。利用者さんが「美味い♡」と笑顔で言ってくれた事がとっても印像的でした。

(福)での生活が少しでも楽しく過ごせる様に… ＊

全国各地から集まったスタッフがアイデアを出し合って新しい企画を考えます!!

次回号も好ご期待!!

ののけ